

抒 啓

朝夕の風に秋を感じる季節となりました。

医療従事者のみなさまにはこんな大変な時代に、感染者の治療をしていただきありがとうございました。

コロナに立ち向かっている医師のかたがたや看護師のかたがたにすく感謝しています。僕たちも不要不急の外出をひかえ手洗い、うがい、密を避けることに気をつけます。

またほかの人にも広めています。

防護服やマスクをつけての医療現場は暑く息苦しいと思しますが、身体を大切にしてください。

敬具



Disporum smilacinum

©IPPEIKAN SINCE 1993

八月二十九日

やわたメディカルセンターの皆様

板津中学校 一年生

代表 熊谷

関戸 大樹



差別から人を守る

小松市での感染が広がって私たちのすぐそばまで感染が広がっている。そう考えると、差別されたり、コロナに感染されたりすることも、ひとごとのようにとらえてはいけないし、私にも起こりうることだと思いました。人は、正体が分からない、得体のしれないものには、恐れてしまうと思いました。コロナのことだけではなく、人のことをよく知らないからこそ、差別が生まれてしまうと思います。また、私たちのために今もたたかっている人に対する差別やいじめは本当にになってほしいと思います。コロナウィルスでも差別をしないのに、人間は人を差別し、傷つけることがあります。私は人を簡単に傷つける人のほうが怖いと思うし、差別をするよりもエールをおくりたいと思いました。

私たちが発すべき言葉は差別する言葉ではなく、感謝の言葉なんだと思う。感染をとめるために頑張っている人たちに、心からの感謝の気持ちを伝えなければいけないと思った。私たちの住む地域で感染が拡大しないために働いてくれているのだから、差別ではなく感謝すべきだと思います。差別されないために、かくれてコロナと闘っている人もいるかもしれない。私たちはそんな人が誇りを持ってコロナと闘える世界にしなければいけないと思った。

僕はもしコロナに感染して差別やいじめがあったら、怒りや苦しみで、最悪の場合死にたいと思うかもしれません。そう思うと私たちは応援メッセージをおくったり、今だからこそ一つになったりできると思うので、差別やいじめではなく、みんなが明るくなるような言葉が大切だと思います。私たちにできることはコロナウィルスのことをもっと詳しく知り正しい知識を持ち、医療従事者の方々を応援することだと思います。差別やいじめをなくすためには、一人一人自分自身がもし感染して差別やいじめにあったときどう思うか考えることが大事だと思いました。また子供のお手本となるのは大人なので、人が差別やいじめをすると子供もまねしてしまうので、大人の人の一つ一つの行動や発言に責任があると思いました。子どもは悪い人をまねするのではなく良い人のまねをすることが大事だと思います。

コロナへの恐怖から差別やいじめが起きていることを初めて知りました。あおり運転や投石をするなんて、あってはならないことなのにするなんて、ひどいと思いました。

自分ができることを探していきたいです。募金や、感染してしまった人や医療従事者のなどの人々にエールを送って、つらい気持ちをしている人が少しでも減ってくれるように頑張りたいです。

コロナ差別をされている人がいることをしっかり頭に入れて行動していきたいです。

自分達のために働いている人を差別している人がいると知りました。頑張ってくれている人への差別をしているのはひどいと思います。なのでぼくは、例えば宅急便の人が荷物を届けってくれたら「ありがとう」や「頑張って下さい」などもっと自信やうれしいと思える言葉をかけたいです。そしてコロナ差別を受けない、受けさせないためにも、コロナの予防をしっかりしていきたいです。自分たちのために働いてくれている人への差別は『絶対』にしません。

私たちが今できること。それは、感染した方々を差別したり休みたいのに休めない空気をつくらないことだと思う。感染した方々はコロナウィルスにかかると思ってかかったわけではない。気を付けていてもかかってしまったのだと思う。その人のせいではない。だからこそ、差別は絶対にしてはいけないと私は思う。コロナウィルスにかかってしまった方々や、医療に関わっている方々は、怖くて、人の目が怖いと思う。そして心は暗くさみしいと思う。その心を今明るくすることができる力があるのが私たちだと思う。一番の薬は注射ではなく、校長先生もおっしゃっていたように思いやりや、笑顔、やさしい言葉だと思う。看護師さんや、医者、配達員さんたちは自分の命を危険にさらしても、他の人の命を救おうと人のために働いてくれている。それぞれ立場があり、一人一人が一緒に協力し、共に戦い、ゴールについたとき、みんなで喜び合える、そんな社会をつくっていきたいと私は思う。

そしてコロナウィルスだけではなく、世界には障がいのある方々、黒人、白人の方々など、たくさん的人がいる。みんな同じ。みんな一緒。誰にも嫌な思いをさせない。みんなが思いやりを持って行動する。そういう世の中を一秒でも早くつくりたいです。

コロナ感染者の方々はコロナにかかりたくてかかったわけではないのに、その方々に差別や誹謗中傷があるのはひどいことだと思います。僕たちのために命をかけて頑張って下さる医療従事者の方々を差別や誹謗中傷するのはおかしいことだと思います。

まずは自分達から差別や誹謗中傷している人をなくし、それを広めていけばよいと思います。医療従事者の方々の負担を減らすために、コロナ感染者を減らしていきたいと思いました。そのため僕たちは手洗い、うがい、3密を避けることを意識して生活していかなければならないと思います。医療従事者の方に出会ったら、感謝を伝えたいと思いました。

「～さんコロナじゃない？」など、人を傷つけ差別が起こる。それがたとえ、どこか他の場所だからといって、自分達も無視するわけにもいかないことが分かりました。そして自分達で少しでも感染対策をとることで、「コロナ」がおさまればいいなと思います。

僕たちが感染者に直接会って楽しませるということはできないけれど、感染者へ手紙でエールを送ったり、看護師さんにはマスクを手作りしてあげたりなど、自分にできることはどれだけもあります。もし友達がかかったとしても、励まして、元気にさせてあげたいです。差別がないようにしたいです。

私は医療の人たちはこの事態を改善するために動いているのに、なんでこんな差別がおこるのか悲しいとも思ったし、ひどいとも思いました。医療の人たちだって恐れや不安を感じているはずです。それでも最前線でできるかぎりの対策をしているのに、相手の気持ちを考えていないなと感じました。誰だって感染している恐れがあるし、対策した人も感染しているのに、どうしてそんなことができるのか不思議でした。身のまわりの人、親しい人、自分が感染してそんなことをされたら想像できなかったのか、思いやりに欠けていると感じました。私たちはできるだけ対策して、誹謗中傷を受けている人たちへエールなどおくればいいと思います。人としての思いやりを考える、そうすれば差別はなくなるのかなと思いました。けれど恐怖の気持ちも分かります。私だって恐いし、みんな怖いと思います。でもそこで思いやりを持って、間違った方向に恐怖や不安をぶつけないようにしたいなと感じました。

私もお店などに行くときに自分もコロナにかかりたくないと思い、人込みを避けたりすれ違いざまに距離を取ったりしていました。でも意見を聞いて、コロナにかかりたくないのは自分だけじゃないと分かりました。

看護師さんなどは一生懸命自分の命よりもコロナにかかっている人を大事にしているのに、差別をするのはおかしいと思いました。親戚の人が看護師だけどみんな差別はしていません、逆に「ありがとうございます」などの声をかけもしています。そして心配もしているけど、そこをみんなで支え合っています。私は身近な人に感謝し支え合うことが大事だと分かりました。私の周りの人はコロナと聞くとあまりいいイメージを持たないのでコロナを「コロ助」と読んだりして工夫しています。

新型コロナウィルスの影響でコロナウィルスにかかってしまった人だけでなく、その人の家族、濃厚接触者までが差別を受けていると聞いてびっくりしました。また医者、看護師などの医療従事者、長距離トラックの運転手やその家族は、つらい思いをしていると聞いてとてもびっくりしました。そしてもし休んだ人がいて、他の人が「〇〇さんコロナじゃない」などと言っていたら「それは言ったらだめだよ」と注意してあげようと思いました。

看護師さんはみんなのためにがんばって働いているのに「保育園に通わせないで」って言うのはおかしいと思ったし、自分が頼んだものを大切に届けてくれたのに「コロナを運ぶな」と言うのはおかしいと思いました。家の用事や風邪をひいて休んでいるだけなのに「コロナじゃない?」と言われるとその人が傷つくから、休んだ人の気持ちを考えていきたいです。

差別をなくすには、感染していない人、感染している人関係なくまずは相手のことをよく考える。自分達にできることは、みんな協力しあって助け合うことだと思います。

相手のことを考え、お互い助け合い、みんなのために働いている人のことを考えたりすることが大切だと思います。自分はまず、相手のことを考えることを目標にしたいです。

今、このコロナの現状のなか、必死でコロナと向き合っている医療関係の方々は私たちのために働いてくれているのに、差別やいじめが起こっていることは、だめだと思います。私たちは少しでもコロナを防ぐために、手洗い・うがい・密を避けるということをしっかり身に付けておきたいです。

また自分がコロナにかかってしまったとして、そんな自分をしっかり介護してくれる医療関係の方々に感謝をしたらいいと思います。差別は人を傷つける凶器です。「恐れるべきはウィルスで人ではない」を大切にして、今の状況だからこそ自分の判断を正したいと思います。

私は感染してしまった人たちや、看護師などといった人に差別をするのは、恥ずかしいことなんだと思います。誰もがいつコロナにかかるか分からぬ状態です。もしコロナにかかったら助けてくれるのは看護師さんなどです。自分の命や大切な人の命を助けてくれる看護師さんなどに差別をするのは、とても恥ずかしいことだと思ったからです。感染してしまった人を差別することについても、もし自分が感染してしまったら・・・ということをきちんと考えた方がいいと思います。もし自分がコロナだとうことに気づかずに周りの人にうつてしまい、うつされた人がみんなに差別されているのだと考えたら、うつってしまった人もそうだし、うつしてしまった人も苦しいと思うからです。

今は、感染してしまった人々を差別するのではなく、早くコロナがおさまるように努力をしたほうがいいと思います。感染してしまった人はそうでない人より何十倍も苦しいと思います。その気持ちを分かってあげエールなどをおくりたいです。

差別がこんなひどい状況だとは思っていなかったのでびっくりしました。特に看護師に対する差別の声がひどいと思いました。僕はコロナに感染した人や差別を受けている看護師やトラックの運転手などを助ける声などをかけてあげたいです。差別をなくすためには感染した人の名前などをうわさしないということが大切だと思います。コロナに感染した人や医療従事者が周りを気にせずに過ごせる地域や社会、そして学校をつくりていきたいです。医療従事者や感染者の気持ちをもっと考えてこれから生活していきたいと思いました。

差別はいけないことでこんなに様々な種類の差別があって駄目だと思いました。そしてその中でできることは、確かではない情報を信じ込まずに、正確な知識を身に付け、正しく対処することだと思います。もしも身近な人でコロナの感染者が出たとしても一回落ち着くことが大切。

自分の周りの人がコロナに感染しても、差別をしないで、みんなで「はやく治って、学校にきて」などと声をかけることが良いと思いました。自分にできることは、コロナに感染しないために、3つの密を避けること、手洗いだと思いました。清掃をし、きれいを保つことが大切だと思います。家や学校をきれいにしていきたいです。

私もできればコロナの人と近寄りたくない今まで思っていたけど、その一つの言葉・行動だけで感染者の方々は心に傷を負って生活していくなければならなくなるから、感染してしまったかたを差別する言葉ではなく、少しでも勇気が出るような言葉をあげたいと思いました。また「恐れるべきはウィルス。人ではない」という言葉を聞いて、コロナと最前線で闘っている方々が頑張れるようなエールを送っていきたいと思いました。今私にはもうコロナ感染者を出さない!という気持ちを持って感染症対策をすることしかできないけど、まずはそこから頑張っていきたいです。

休んだりしても疑われたりするのが怖いと思いました。自分が差別をしてしまわないように気を付けていたいと思いました。

自分がもしかかっても高齢者や病気の人などにうつさないようにしたいと思いました。今私ができることは3つの密を避けたり、外出自粛をしたりすることだと思います。体調が悪かったりするときはすぐに先生や家族に言ったりしたいと思いました。マスクをつけて感染しないようにしたいと思いました。他の国ではコロナにかかった人たちを差別しているところもあるので差別しないようにしたいです。